

コカ・コーラ ボトラーズジャパン  
ホールディングス株式会社

個人投資家向け会社説明資料

証券コード：2579(東証プライム)

2026年9月30日



ハッピーなひとときを  
ボトルから。  
We bottle happy moments.

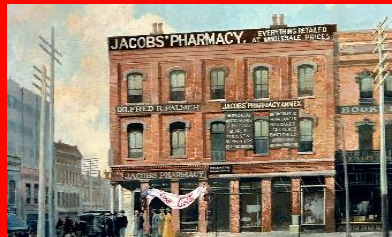
*Coca-Cola*  
BOTTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

# 目次

|                                           |     |
|-------------------------------------------|-----|
| 🍷 コカ・コーラ ボトラーズジャパンについて                    | … 2 |
| 🍷 事業内容の紹介                                 | …10 |
| 🍷 中期経営計画「Vision 2030」                     | …17 |
| 🍷 2026年戦略・業績概要                            | …20 |
| 🍷 株主還元                                    | …26 |
| 🍷 サステナビリティ経営および人的資本経営の推進、<br>コーポレート・ガバナンス | …29 |

# コカ・コーラ ボトラーズジャパンについて

# 世界で140年以上、日本で60年以上親しまれる「コカ・コーラ」



「コカ・コーラ」は1886年アメリカ  
ジョージア州 アトランタで誕生



コカ・コーラのびん(コンツアーボトル)  
は1960年に連邦特許庁に認められ、  
商標として登録



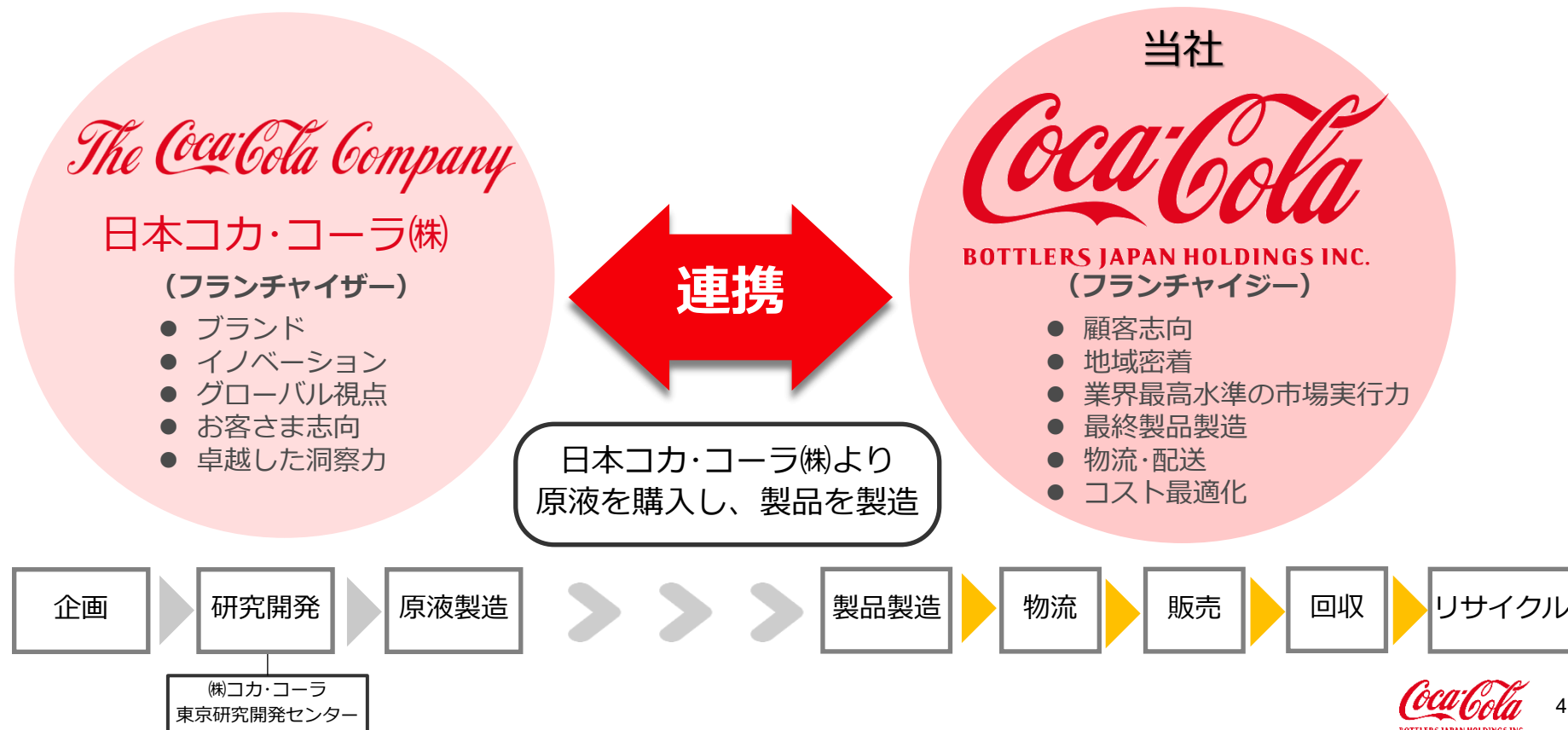
コカ・コーラ社製品は、全世界で  
1日に約19億杯※飲まれています



コカ・コーラとサンタクロース  
1931年のクリスマスキャンペーンから

# 日本のコカ・コーラシステム

！コカ・コーラのしくみはフランチャイズシステム。強固なパートナーシップのもとビジネスを展開。



# 会社概要

(2026年6月30日現在)

|        |                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------|
| 社名     | コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社                             |
| 設立     | 1960年12月20日<br>(2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスに商号変更) |
| 資本金    | 152億32百万円                                                |
| 所在地    | 本社：東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー                              |
| 代表者    | 代表取締役社長 カリン・ドラガン                                         |
| 連結従業員数 | 12,723名                                                  |
| 時価総額   | 6,736億円<br>2026年8月31日終値(3,933円)にて算出                      |
| 上場取引所  | 証券コード：2579 東京証券取引所(プライム市場)                               |



# ミッション、ビジョン、バリュー



## ミッション

---

すべての人に**ハッピーなひととき**をお届けし、**価値**を創造します

## ビジョン

---

- すべての**お客さま**から選ばれる**パートナー**であり続けます
- 持続可能な成長により、**市場で勝ちます**
- 常に**学び**ながら**成長**します
- **コカ・コーラに誇り**を持ち、誰もが**働きたい**と思う**職場**をつくります

## バリュー

---

- **学ぶ**向上心を忘れません
- 変化を恐れず**機敏**に行動します
- **結果**を見据え最後までやりきります
- **誠実と信頼**に基づいた気高い志で行動します

# 取締役体制

## 取締役会メンバー

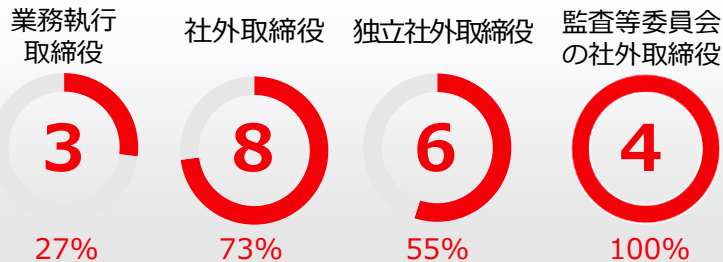
(2026年3月26日現在)



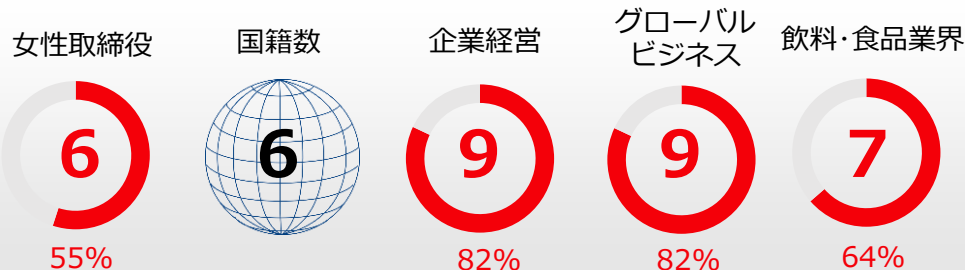
高水準のガバナンスと独立性を実現し、ジェンダー、国籍、ビジネス経験が多様でダイバーシティを尊重した取締役会。

各取締役は必要なスキルを備え、透明性と公正性を保ちつつ迅速な意思決定を行い、実効性のある取締役会運営を推進。

### ガバナンス・独立性

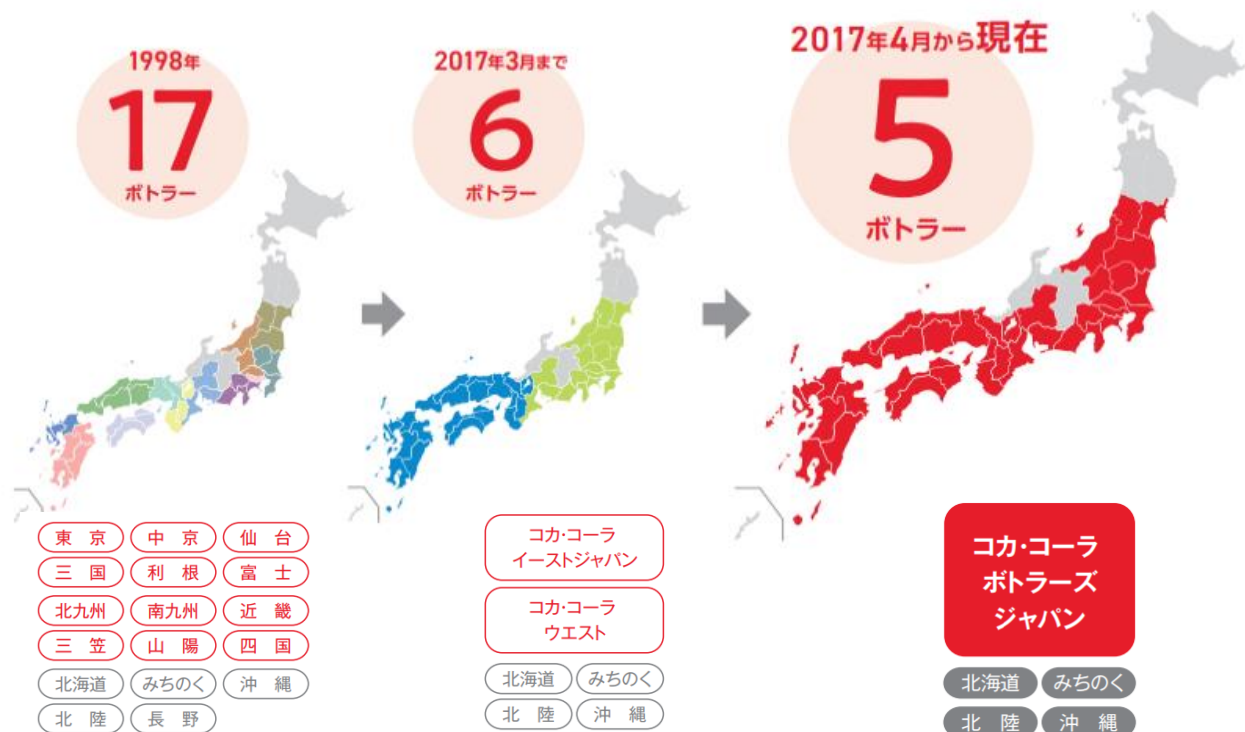


### ダイバーシティ・ビジネス経験



# 統合の歴史

- 1999年以降、経営統合により事業規模を拡大し、2017年にコカ・コーラ ボトラーズジャパンが誕生。
- 現在、当社を含めた5ボトラーが日本国内でのコカ・コーラ社製品の製造・販売等を担う。



## コカ・コーラ ボトラーズジャパン

- 売上高**アジア最大級**のコカ・コーラボトラー。
- 約**30ブランド・400種類以上**の製品を提供する「総合飲料企業」。
- 国内コカ・コーラシステムの**約9割**の販売数量。

### 当社以外の国内ボトラー

北海道コカ・コーラボトリング(株)  
みちのくコカ・コーラボトリング(株)  
北陸コカ・コーラボトリング(株)  
沖縄コカ・コーラボトリング(株)

# 数字で見るコカ・コーラ ボトラーズジャパン

年間販売数量  
約**5**億ケース



ブランド数  
約**30**ブランド



製品数  
**400**種類以上



営業拠点数<sup>※1</sup>  
約**290**カ所



取扱店舗数<sup>※2</sup>  
約**34**万軒



自動販売機台数  
約**65**万台



## 財務

売上収益

**8,938**億円

事業利益<sup>※3</sup>

**245**億円

ROIC<sup>※4</sup>

**3.2**%

FCF<sup>※5</sup>  
(フリー・キャッシュ・フロー)

**354**億円

EBITDA<sup>※6</sup>

**642**億円

1株当たり  
年間配当金

**60**円

## 非財務

社員数<sup>※7</sup>

約**12,700**人

社外取締役比率<sup>※8</sup>

**73**%

女性管理職比率<sup>※9</sup>

**10.4**%

男性の育児休業等取得率<sup>※10</sup>

**100.6**%

水使用量の削減率  
(全17工場が対象、2015年比)

**24**%

水源涵養率<sup>※11</sup>

**391**%

(対象期間の記載がないものは2025年年間もしくは2025年12月末時点の実績)

※1 ディストリビューションセンター含む ※2 スーパーマーケット、ドラッグストア・量販店、コンビニエンスストア、飲食店が対象 ※3 事業利益は、事業の経常的な業績をはかるための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです ※4 ROIC：投下資本利益率 ※5 フリー・キャッシュ・フロー：営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額 ※6 EBITDA＝事業利益＋減価償却費 ※7 臨時雇用含まず ※8 2026年4月1日時点 ※9 女性管理職比率は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）の規定に基づき算出しています。臨時雇用含まず ※10 法律に基づき、規則に定められた方法により算出しています。「男性労働者の育児休業等取得率＝年度内に育児休業等取得した男性労働者数÷年度内に配偶者が出産した男性労働者数」の計算式により計算しており、例えば2024年度に配偶者が出産した男性労働者が、初めて2025年度に育児休業等取得した場合も分子に含むため、取得率が100%を超えることがあります ※11 最終製品に使用した水の量に対する自然および地域社会への水の還元量の割合

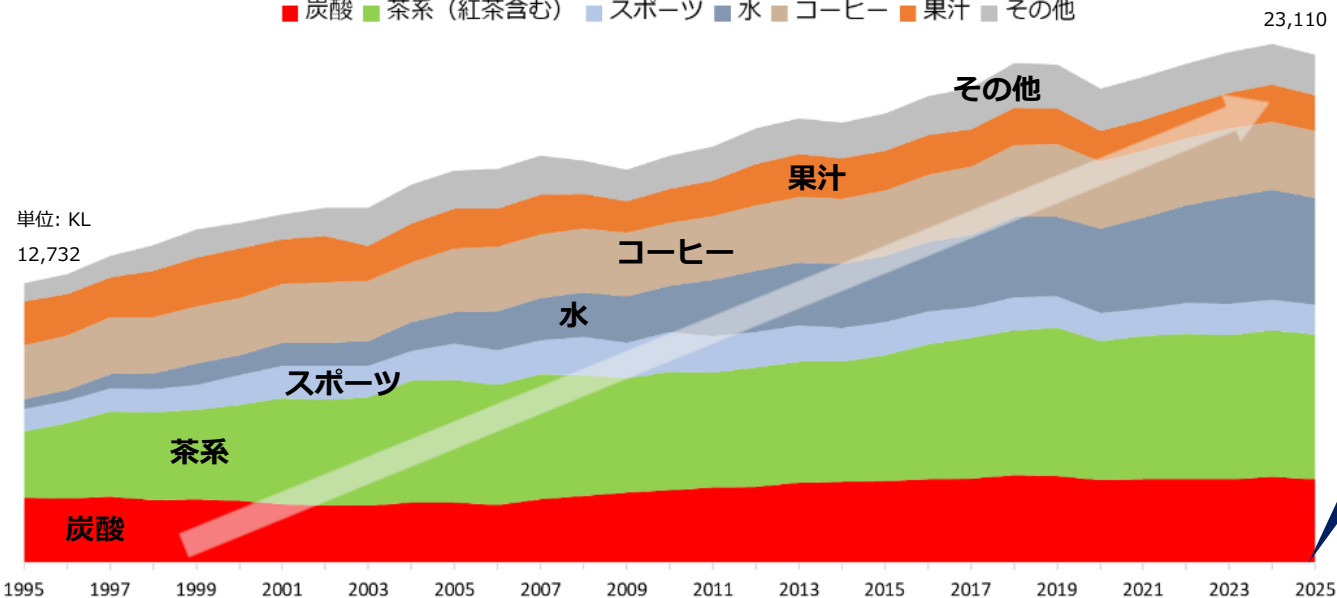
# 事業内容の紹介

# 成長する日本の清涼飲料市場

↑ カテゴリーの多様化等により成長し、市場規模は30年間で約1.8倍に拡大。

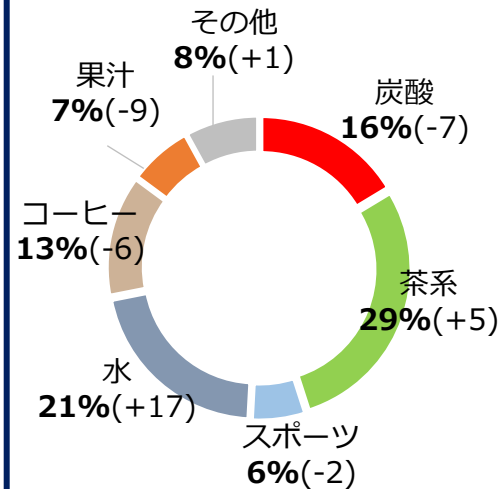
## 日本の清涼飲料市場の推移(生産量ベース)

■ 炭酸 ■ 茶系(紅茶含む) ■ スポーツ ■ 水 ■ コーヒー ■ 果汁 ■ その他



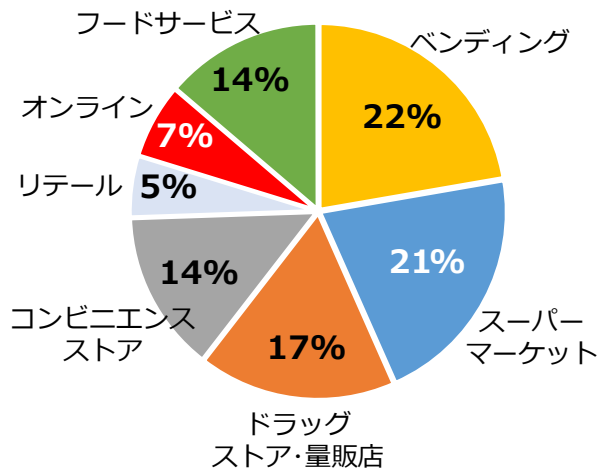
出典：一般社団法人全国清涼飲料連合会「清涼飲料水関係統計資料」

### 2025年カテゴリー別構成比 ( )内は1995年比増減(ポイント)



# 清涼飲料チャネル別販売状況

2025年通期チャネル別  
販売数量構成比



## ベンディング(自動販売機)



ロケーションに  
応じた品揃え



コカ・コーラ  
公式アプリ「Coke ON®※」

## スーパーマーケット、 ドラッグストア・量販店、 リテール



キャンペーン等に合わせた売場づくり

## コンビニエンスストア



お得意さま限定製品・  
共同企画製品の展開、  
ニーズに合わせた品揃え

## オンライン



オンラインプラットフォームを  
通じたラベルレス製品等の販売

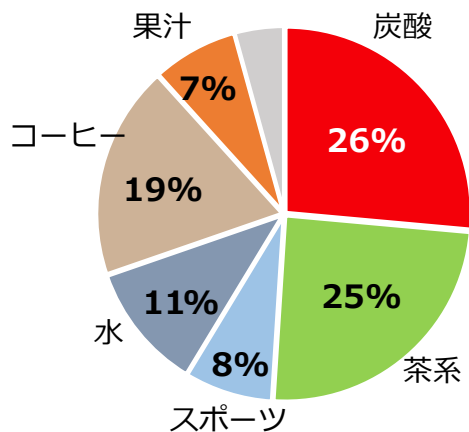
## フードサービス



飲食店等での  
ソフトドリンクの提供  
(ドリンクバー等)

# 清涼飲料カテゴリー別販売状況

2025年通期カテゴリー別  
販売数量構成比



## 炭酸



## 茶系



## コーヒー



## 水



## スポーツ



## 果汁



## アルコールカテゴリー

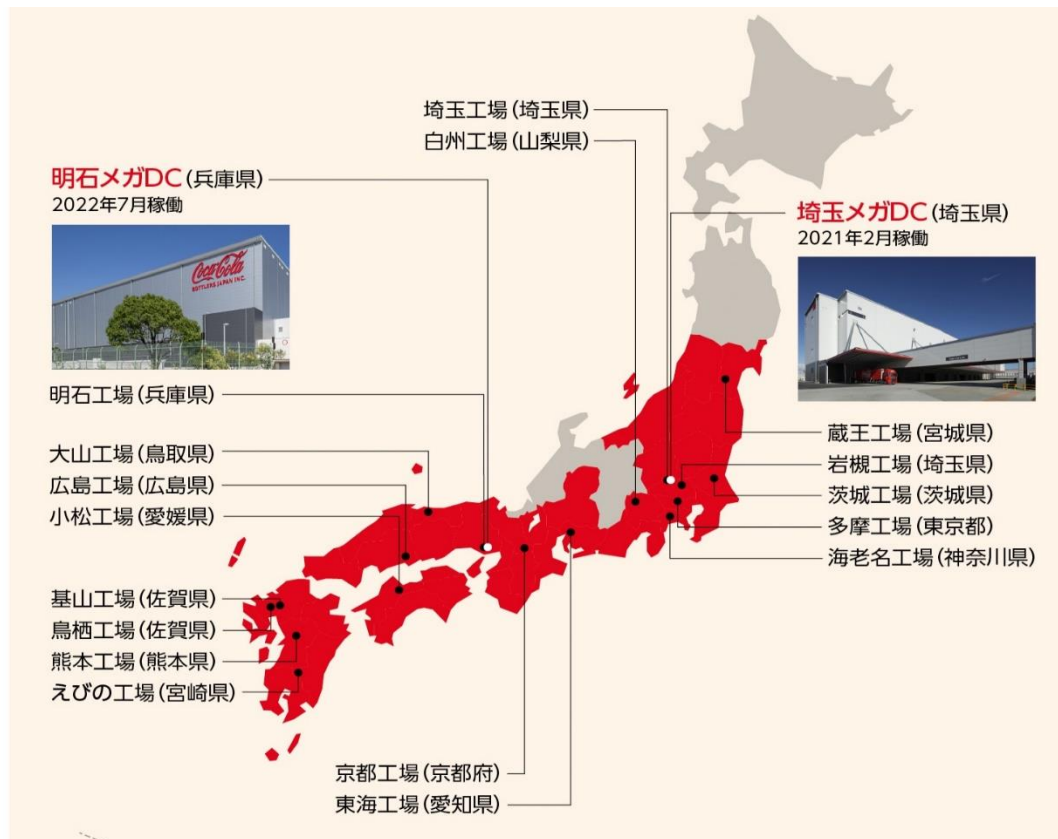


※販売数量構成比のグラフにはアルコールの数量分は含まれていません。



# 当社のサプライチェーンの概要

各工場での柔軟な製造と効率的な製品輸送により、エンド・ツー・エンドの全体最適を図る。



# メガDC(自動物流センター)の活用



埼玉メガDC

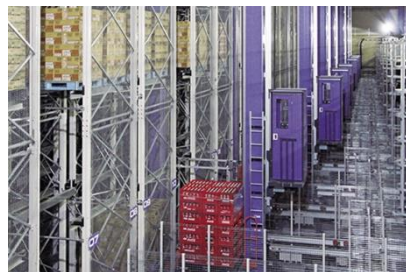
|        |              |
|--------|--------------|
| 製品保管数量 | 約60,000パレット  |
| 製品出荷能力 | 約8,500万ケース/年 |
| 出荷エリア  | 東京都、埼玉県      |



明石メガDC

|        |              |
|--------|--------------|
| 製品保管数量 | 約60,000パレット  |
| 製品出荷能力 | 約8,000万ケース/年 |
| 出荷エリア  | 大阪府、兵庫県      |

## パレット自動倉庫



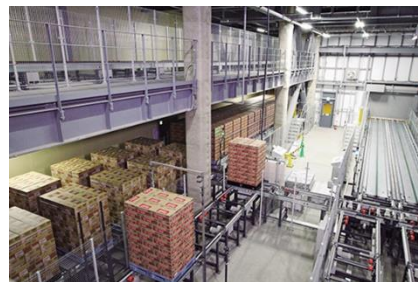
高密度保管システムを採用。埼玉メガDC、明石メガDCともに約6万パレットを格納可能。

## 混載パレタイズロボット



複数の製品を1つのパレットにまとめて積み付け、配送に回すロボット。異なるサイズの製品を効率よくパレットに積み込む。

## RORO(roll-on/roll-off)



約1,500ケース※の製品を一括してトラックに荷役できる自動設備。フォークリフト作業と比較した場合、トラックへの積み込み・積み下ろし作業時間を約7割削減可能。 ※500mlPETの場合

## 高速搬送台車



製品をパレット自動倉庫へ入庫、積み付けた混載パレットを出荷エリアへ移動させる設備。走行速度は分速200mで、スピーディーな搬送が可能。

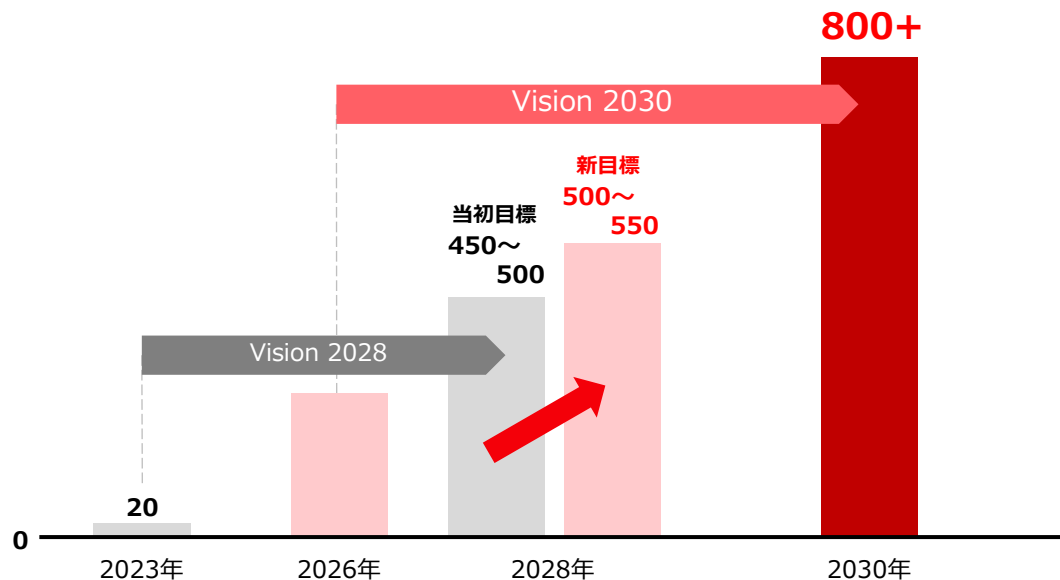


# **中期経営計画「Vision 2030」 (2026年～2030年)**

# 中期経営計画「Vision 2030」の主要目標

- 2028年の目標を上方修正し、2026年～2030年の5年間の新中期経営計画「Vision 2030」を策定。
- 2030年に、過去最高益の約2倍の事業利益800億円以上、資本コストの約2倍のROIC 10%以上を目指す。
- 業績および主要指標の大幅改善を図るとともに、当社史上最大規模の株主還元を計画。

中期経営計画上方修正の概要（事業利益：億円）



## 2030年 主要目標

|                                                                                                     |                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
|  売上収益            | <b>1兆円以上</b><br>年平均成長率 +2～3%   |
|  販売数量            | 年平均成長率 <b>+0.5～1%</b>          |
|  事業利益<br>(事業利益率) | <b>800億円以上</b><br>(事業利益率 8%以上) |
|  変革効果            | <b>300～350億円</b>               |
|  ROIC            | <b>10%以上</b>                   |
|  1株当たり<br>配当金    | <b>140～150円</b>                |
|  自己株式取得         | <b>累計1,500億円</b>               |

# 「Vision 2030」の戦略の柱

## Vision 2030：収益性と資本効率のさらなる向上を目指す

業績の透明性を高め説明責任を明確にしたビジネスユニットごとに、  
市場実行力を高め、収益性を改善することで、統一された全社目標の達成を目指す

### ベンディング

- ↑ ビジネス全体を見直し、利益創出基盤を再構築。収益性・資産効率の改善に注力。
- ↑ データの活用力を高め、競争力再強化に向けた戦略を実行。
- ↑ デジタルを駆使した変革を継続。

### OTC（手売り）

- ↑ 成長機会を見極めたトップライン成長戦略を実行。
- ↑ ROI重視でマーケティング投資を実行。
- ↑ キーカスタマーとさらなる連携強化。

### フードサービス

- ↑ 飲用機会拡大に向け、カスタマーへの価値提案を強化。
- ↑ 成長業態へのアプローチを強化。
- ↑ 収益性を意識し機材・品揃えを最適化。



### サプライチェーン

強固なサプライチェーン基盤の活用と  
さらなる効率化の推進



### バックオフィス・IT

さらなるデータドリブン経営の実現に向け、  
全社横断でDXを推進

ESG/人的資本/財務基盤

持続可能なビジネスを支える基盤の強化

# 2026年戰略・業績概要

# 2026年 戦略の方向性

## 営業エクセレンス：ビジネスユニットごとの事業運営体制による競争力と収益性の向上

最適な製品ポートフォリオと  
マーケティングプランを通じた  
市場実行力の強化

価格改定を含めた  
収益性重視の活動の徹底

中長期的視点でカスタマー  
エンゲージメントを強化し、  
成長戦略を加速

## 変革を通じた事業基盤のさらなる強化

### サプライチェーン

「地産地消モデル」を通じてさらなる生産性向上を  
実現し、需要主導型で機敏な供給対応を強化

### バックオフィス・IT

さらなるデータドリブン経営の実現に向け、  
ITシステムやデータの統合、業務効率化を推進

## 財務基盤の強化：資本の適切な管理・運用による資本効率の改善

## 業績を向上させ、株主還元を拡充させる好循環を目指す

事業利益

**350** 億円

ROIC

**4** %以上

変革効果

**60** 億円

1株当たり配当金

**72** 円

自己株式取得※

**300** 億円

※ 自己株式の取得期間：2025年11月1日～2026年10月31日

(2026年目標)



# 2026年 営業戦略

↑ ビジネスユニットごとの事業運営体制により、競争力と収益性を向上。

## ポートフォリオエッジ の強化

- ↑ コアカテゴリー強化による飲用機会の獲得
- ↑ イノベーションを通じた高付加価値製品の展開
- ↑ オเคーションにあわせた製品・パッケージの展開
- ↑ 日本コカ・コーラとの連携強化による消費者エンゲージメントの向上

## 収益性重視の 営業活動の徹底

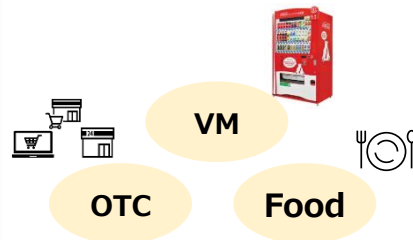
- ↑ 価格改定効果の創出
- ↑ チャネルごとにカテゴリー・パッケージミックスを適切に管理
- ↑ 中長期的視点でROI重視のマーケティング活動を実施
- ↑ アカウンドごとの収益性をふまえ、リベート・販促費を最適化

## カスタマーとの 関係性強化

- ↑ カスタマーの課題解決や協業を通じて、強固な信頼関係を構築、ビジネス機会を拡大
- ↑ クロスファンクショナルな営業体制で、カスタマーエンゲージメントを強化
- ↑ キーカスタマーと戦略的パートナーシップを構築

## ビジネスユニットごとの 事業運営

- ↑ ビジネスユニットごとに成長戦略の重要施策を事業環境やカスタマーの特性に応じて実行、業績管理を徹底



# 2026年 通期業績計画(2026年2月発表)

↑売上収益は増収、事業利益は4年連続100億円以上増益の350億円を計画。

↑期中に、中東情勢による追加的なコスト増加(2026年内に当初計画比約20～40億円程度のコスト増加)を見込むも、価格改定の実施や自動販売機での「モンスターエナジー」の販売開始、コスト削減策の実行といった追加施策により吸収し、引き続き、通期の事業利益目標350億円の達成を目指す。

単位：百万円

|                        | 2026年 通期<br>計画 | 2025年 通期<br>実績 | 増減       | 前年比    |
|------------------------|----------------|----------------|----------|--------|
| 売上収益                   | 902,700        | 893,805        | +8,895   | +1.0%  |
| 販売数量 (百万ケース)           | 493            | 501            | -8       | -1.5%  |
| うち、清涼飲料販売数量 (百万ケース)    | 489            | 496            | -8       | -1.5%  |
| 売上原価                   | 486,100        | 494,501        | -8,401   | -1.7%  |
| 売上総利益                  | 416,600        | 399,304        | +17,296  | +4.3%  |
| 販管費                    | 381,000        | 373,475        | +7,525   | +2.0%  |
| 事業利益                   | 35,000         | 24,525         | +10,475  | +42.7% |
| 営業利益 (△損失)             | 36,000         | △72,385        | +108,385 | -      |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) | 22,500         | △50,763        | +73,263  | -      |
| EBITDA※                | 70,100         | 64,181         | +5,919   | +9.2%  |

※ EBITDA=事業利益+減価償却費

# 2026年上期(1月～6月) 業績 (対前年)

↑ 上期の事業利益は前年比5倍以上。8年ぶりに上期の当期利益※<sup>1</sup>が黒字化。

単位：百万円

|                        | 2026年 上期<br>実績 | 2025年 上期<br>実績 | 増減       | 前年比     |
|------------------------|----------------|----------------|----------|---------|
| 売上収益                   | 423,191        | 417,942        | +5,248   | +1.3%   |
| 販売数量 (百万ケース)           | 234            | 230            | +4       | +1.5%   |
| うち、清涼飲料販売数量 (百万ケース)    | 232            | 228            | +4       | +1.8%   |
| 売上原価                   | 233,549        | 234,529        | -980     | -0.4%   |
| 売上総利益                  | 189,642        | 183,413        | +6,228   | +3.4%   |
| 販管費                    | 181,762        | 181,599        | +163     | +0.1%   |
| 事業利益                   | 8,137          | 1,535          | +6,602   | +430.1% |
| 営業利益 (△損失)             | 9,098          | △92,170        | +101,268 | -       |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) | 4,778          | △65,892        | +70,670  | -       |
| EBITDA※ <sup>2</sup>   | 23,647         | 24,152         | -505     | -2.1%   |

※<sup>1</sup> 親会社の所有者に帰属する当期利益

※<sup>2</sup> EBITDA=事業利益+減価償却費

# 2026年トピックス：利益成長につながる営業施策を着実に実行

## コアカテゴリー「炭酸」強化による競争力向上

- ワールドカップを最大活用した限定製品発売やキャンペーン展開等が、売場活性化と「コカ・コーラ」の数量成長に貢献。



- 外食市場での体験価値向上策により、「コカ・コーラ」の販売を強化。



「コカ・コーラ」のおいしい飲み方  
「パーフェクトサーブ」の提案



おいしい食事と最高の  
「コカ・コーラ」体験ができるお店  
「コカ・コーラFoodmarks」

## ベンディング事業におけるエナジードリンク強化

- 日本No.1※のエナジードリンクブランド「モンスターエナジー」を、当社の自動販売機で取り扱い開始。
- 6月に販売開始。高単価製品として今後の利益貢献に期待。

エナジードリンクの  
リーディングブランド

業界最大規模の  
自動販売機ネットワーク



モンスターエナジー

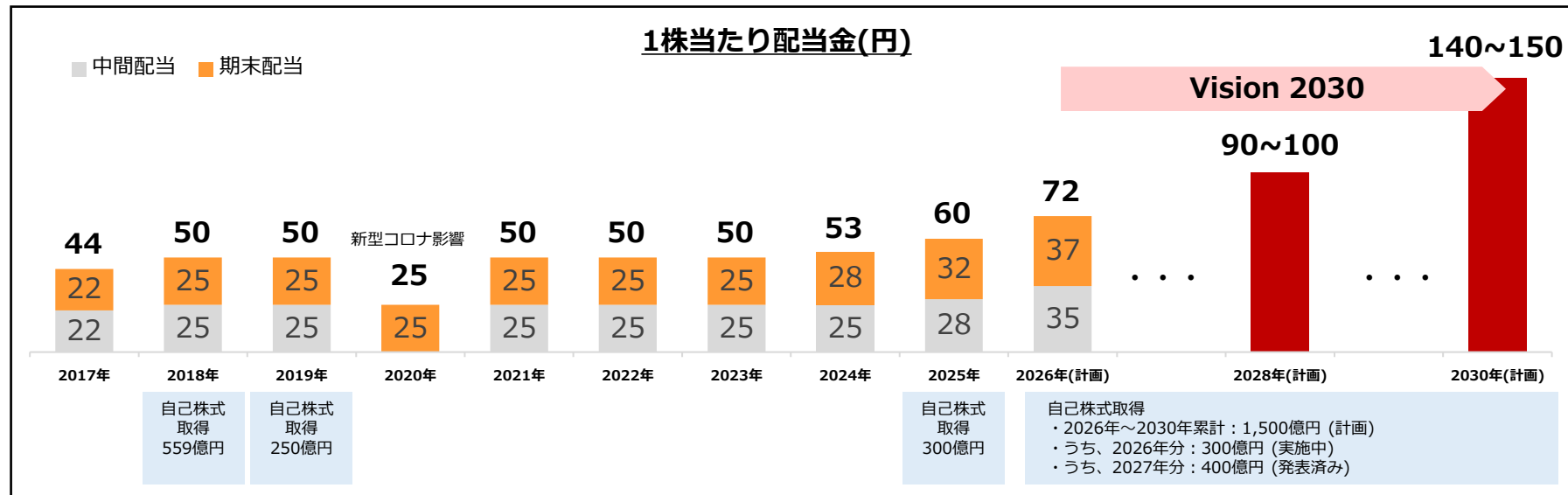
コカ・コーラ  
ボトラーズジャパン

# 株主還元

# 株主還元：配当および自己株式取得

■ **配当方針**：連結配当性向40%および連結株主資本配当率(DOE)2.5%を実現・継続し、「Vision 2030」の期間において累進配当を実施することで、1株当たり年間配当額を毎年、前年比で維持または増額する方針。2026年の1株当たり年間配当は対前年12円増配の72円の計画。

■ **自己株式取得**：2030年までに累計1,500億円の自己株式取得を実施予定で、2026年分の300億円の自己株式取得が10月に完了見込み。2027年分(2026年11月～2027年10月)の400億円の自己株式取得についても発表済み。



※上記における2025年の自己株式取得は2024年11月11日～2025年10月31日分、2026年の自己株式取得は2025年11月1日～2026年10月31日分(実施中)、2027年の自己株式取得は2026年11月1日～2027年10月31日分(計画)。

# 株主還元：株主優待制度

保有株式数および保有期間に応じて、Coke ON®※ドリンクチケットを贈呈。コカ・コーラのスマホアプリCoke ON®対応自動販売機で、好きなコカ・コーラ社製品と交換いただけます。

## ●対象となる株主さま

毎年6月30日または12月31日時点の株主名簿上で、  
当社株式100株以上を半年以上継続保有していただいている株主さま。

## ●株主優待の内容

|                    | 継続保有期間：<br>半年以上 3年未満 | 継続保有期間：<br>3年以上   |
|--------------------|----------------------|-------------------|
| 100株以上<br>1,000株未満 | ドリンクチケット<br>5枚/回     | ドリンクチケット<br>10枚/回 |
| 1,000株以上           | ドリンクチケット<br>10枚/回    | ドリンクチケット<br>20枚/回 |

株主優待チケット1枚で、Coke ON®ドリンクチケット5枚分をダウンロードいただけます。

## ●贈呈(発送)時期

毎年6月30日または12月31日から3ヵ月以内に発送予定。



Coke ON®で使える  
Coke ONドリンクチケット1枚  
(好きなコカ・コーラ社製品1本)



株主優待制度の詳細については当社Webサイトをご参照ください。  
<https://www.ccbj-holdings.com/ir/stockholder/preferential.php>

※「Coke ON」は、The Coca-Cola Companyの登録商標です。



# サステナビリティ経営および 人的資本経営の推進、 コーポレート・ガバナンス

# CSV Goals ～共創価値の実現に向けて～

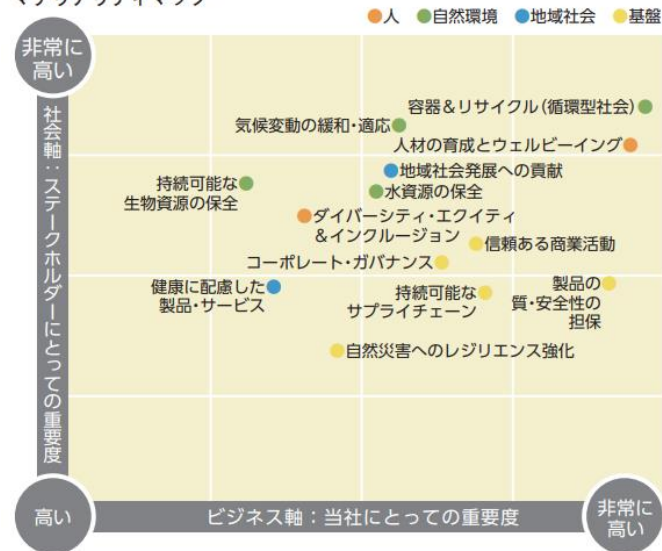
マテリアリティに基づく非財務目標を定め、持続可能な事業と社会、ミッションの実現に向けた活動を推進。

## 非財務目標「CSV Goals」

|      | マテリアリティ                  | 項目                                                     | 2025年実績                                  | 2030年目標値 | 2035年目標値 |
|------|--------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------|----------|
| 人    | ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン | 人材の育成とウェルビーイング                                         | 有給休暇取得率                                  | 78.6%    | 70%      |
|      |                          |                                                        | 女性管理職比率                                  | 10.4%    | 20%      |
|      |                          |                                                        | 配偶者・パートナーの育児休業等5日以上取得率                   | 98.9%    | 100%     |
| 自然環境 | 容器&リサイクル (循環型社会)         |                                                        | パッケージ(PETボトル、缶、瓶)におけるリサイクル素材の使用率         | 39%      | 45-50%   |
|      |                          |                                                        | PETボトルの軽量化率(2004年比)*1                    | 35%      | 37%      |
|      |                          |                                                        | 自社回収した空容器(PETボトルおよび缶)の水平リサイクル率*2         | 26%      | 50%      |
|      | 気候変動の緩和・適応               |                                                        | 温室効果ガス削減率 スコープ1、2(2015年比)                | 27%      | 50%      |
|      |                          |                                                        | 温室効果ガス削減率 スコープ3(2015年比)                  | 29%      | 30%      |
|      |                          |                                                        | 温室効果ガス排出量実質ゼロ(目標年2050年)                  | —        | —        |
|      |                          |                                                        | 再生可能エネルギー比率100%(目標年2050年)                | —        | —        |
|      | 水資源の保全                   |                                                        | 水源涵養率                                    | 391%     | 350%     |
|      |                          |                                                        | 水使用量の削減率(2015年比)*3                       | 24%      | 30%      |
|      | 持続可能な生物資源の保全             |                                                        | コカ・コーラ「森に学ぶ」プロジェクトの実施率*4                 | 88%      | 100%     |
|      |                          |                                                        | 工場水源地における生物多様性保全活動の実施率*5                 | 27%      | 60%      |
| 地域社会 | 健康に配慮した製品・サービス           |                                                        | 特定保健用食品(トクホ)および機能性表示食品の販売数量増加率(2025年比)*6 | 398%     | 150%     |
|      |                          |                                                        | 社員の社会貢献ボランティア参加率                         | 26%      | 20%以上    |
|      |                          |                                                        | 自社主催の地域貢献活動による地域エンゲージメント率*7              | 99%      | 90%以上    |
| 事業基盤 | 製品の質・安全性の担保              |                                                        | フードバンク活動支援を通じた製品寄贈の実施率(都府県ベース)*8         | 53%      | 75%      |
|      |                          |                                                        | 食品安全国際認証の維持*9                            | 100%     | 100%     |
|      |                          |                                                        | 取締役会・委員会における多様性の確保と実効性の向上*10             | 87%      | 100%     |
|      | 持続可能なサプライチェーン            | サプライヤーによるサプライヤー基本原則(Supplier Guiding Principles)の遵守*11 | 100%                                     | 100%     | 100%     |

\*1 PETボトルにおけるプラスチック使用量削減率 \*2 自動販売機併設リサイクルボックスから回収した使用済みPETボトルおよび缶を対象とし、原料化(リサイクル)し、新たなPETボトルまたは缶として再利用した割合 \*3 全17工場を対象 \*4 全工場の周辺流域にて2年ごとに実施 \*5 全工場の水源地を対象とし、生物調査または啓発活動のいずれかを実施した割合 \*6 特定保健用食品および機能性表示食品の販売数量増加率は2016年比の実績 \*7 自社主催の地域貢献プログラム(工場見学、森に学ぶ、社会貢献イベント)の参加者を対象としたアンケート結果のうち、「満足」と回答した割合 \*8 全営業エリアの都府県(1都2府35県)のうち、寄贈を行った都府県別の割合 \*9 全17工場を対象としたFSSC22000認証の取得率 \*10 取締役会、監査等委員会および指名報酬委員会について設定した当社指標に対する達成状況をもとに算出 \*11 当社が調達する原材料・一次包材のサプライヤーを対象とする監査において、遵守と判定されたサプライヤーの割合

## マテリアリティマップ



「CSV Goals」の詳細については当社Webサイトをご参照ください。  
<https://www.ccbji.co.jp/csv/csvgoal/>

# CSV Goals 実現に向けた取り組み



人

女性活躍推進  
女性管理職育成プログラム等の実施



障がい者雇用促進・活躍支援



ITスキルを使って活躍する「ゆにらぼ」

障がい者雇用比率

**2.56%**

2025年6月1日時点  
管轄の公共職業安定所長あてに提出している  
「障がい者雇用状況報告書」の数値

LGBTQ+ 理解促進

社内啓発イベントの実施、就業規則の整備等



Be **COLO**RFUL!



自然環境

循環型社会の実現に向けた取り組み  
「ボトルtoボトル」に加え、  
アルミ缶の水平リサイクル「CAN to CAN」の  
取り組みを推進



全17工場の水源域で水資源保全活動を実施  
自然体験イベント コカ・コーラ「森に学ぼう」  
プロジェクト等を開催



地域社会

各地域のフードバンクに  
飲料製品を寄贈



製品寄贈実績

**34,864ケース**

(851,644本)

2025年実績

工場見学の実施



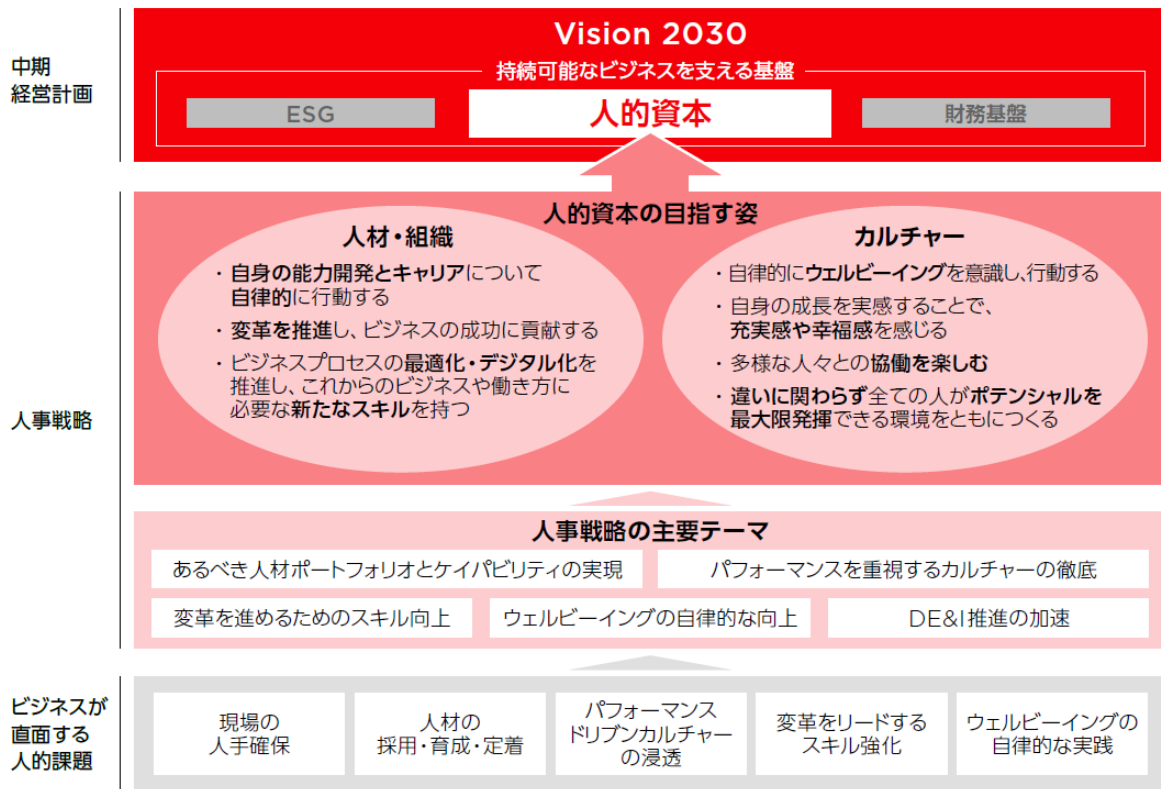
地域社会へのSDGsセミナーの開催



# 人的資本経営の推進

戦略実行のための「人材と組織の強化」と、社員のポテンシャルを最大限に引き出す「社員のウェルビーイングを促進するカルチャーの醸成」を軸に、人事戦略を推進。

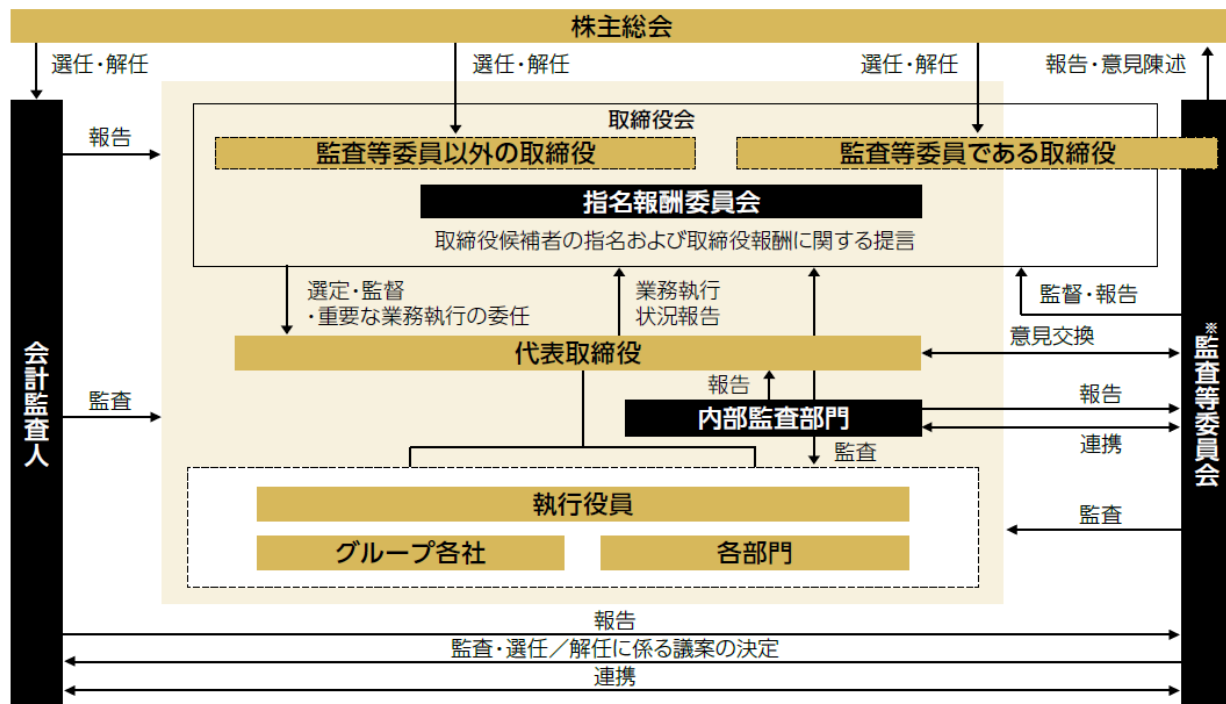
中期経営計画「Vision 2030」を支える人事戦略



# コーポレート・ガバナンス

- 経営の健全性、透明性および効率性の向上に向け、経営監督機能を重視した「監査等委員会設置会社」を採用。任意の「指名報酬委員会」を設置。

## コーポレート・ガバナンス体制図



## 体制の概要

|            |                                          |
|------------|------------------------------------------|
| 機関設計       | 監査等委員会設置会社                               |
| 取締役        | 11名(うち社外取締役8名)                           |
| 独立社外取締役の員数 | 6名                                       |
| 取締役の任期     | 取締役(監査等委員である取締役を除く):1年<br>監査等委員である取締役:2年 |
| 執行役員制度の採用  | 有                                        |
| 取締役会の諮問機関  | 監査等委員会、指名報酬委員会                           |
| 役員報酬体系     | 業績連動報酬制度                                 |
| 会計監査人      | EY新日本有限責任監査法人                            |

※複数の独立社外取締役を含む社外取締役(監査等委員)のみで構成

# 外部評価

## ■ SRIインデックスへの組み入れ状況

Dow Jones  
Best-in-Class Indices  
Asia Pacific Index



## ■ ESG関連の外部評価



掲載は一部の抜粋です。詳細については当社Webサイトをご参照ください。  
<https://www.ccbji.co.jp/csv/evaluation/>

# コーポレートウェブサイト紹介、工場見学案内

## IR情報サイト

コカ・コーラ ボトラーズジャパン IR情報



<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

## 工場見学



※ご予約、お問い合わせは各工場の見学受付までご連絡ください。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン 工場見学



<https://www.ccbji.co.jp/plant/>



ハッピーなひとときを、  
ボトルから。

安全・安心な 1 本をつくり続けたい。

あらゆるシーンで新しいおいしさやハッピーなひとときを届け、  
価値を創造し、限りある資源を大切に、次のつくるにつなげたい。

多様な人材が力を合わせ、さまざまな変革を起こすことで、  
あふれるほどのハッピーを生み出し、  
豊かな生活に貢献できると信じています。

人と地域社会と自然環境に寄り添う仕事をしている誇りと使命を胸に、  
今日も私たちは走り続けます。



# THANK YOU

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 IR部

[ir@ccbj.co.jp](mailto:ir@ccbj.co.jp)

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

# 将来の業績に関する見通しについて

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上でのコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（以下CCBJHまたは当社）経営陣の仮定および判断に基づくものです。これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

なお、リスクおよび不確定要因は以下のものに限られるものではありません。CCBJHの有価証券報告書等にも記載されていますので、ご参照ください。

- ・ ザ コカ・コーラ カンパニーおよび日本コカ・コーラ株式会社との契約
- ・ 製品の品質・安全性
- ・ 市場競争
- ・ 天候、災害、水資源等の自然環境
- ・ 法規制
- ・ 情報漏えい・消失
- ・ 個人消費動向、為替レート、原材料費、保有資産等の時価等、経済状況の変化による影響
- ・ 経営統合、業務プロセスの効率化・最適化による影響
- ・ 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、CCBJH発行の証券への投資勧誘を目的するものではありません。

また、CCBJHは新しい情報あるいは将来のイベントにより、本資料の内容を更新する義務を負いません。みなさまにおかれましては、CCBJH発行の証券に投資する前に、ご自身の独立した調査に基づいて判断をお願いいたします。